

「名古屋で珈琲焙煎一筋100年」

「社長！ あと五十枚しかありません！」

揃いのハッピを羽織った営業部スタッフの一人がブースの壁一枚隔てたバックヤードから叫びます。その声は来場客にアイスコーヒーの入ったカップを手渡している私の耳に届きます。そうこうしている間にも試飲サービスの順番を待つ人が一人、また一人と増えていきます。

東京・お台場の東京ビッグサイト東館で二〇一六（平成二十八）年六月十四日から十六日まで開かれた「第四回カフェ・喫茶ショー」は終始熱気に包まれていました。ワダコーヒーのブースは会場中央付近の角地という絶好の立地です。

スタッフの切羽詰まった声を聞いたのはその初日のこと。

あと五十枚しかないのは、このイベントのために準備した宣伝用のうちわです。両面印刷の片方に「ワダコーヒー創業100周年 1918―2018」、もう片方には「名古屋で珈琲焙煎一筋100年」というキャッチフレーズが踊ります。

用意したうちわは二千枚。一日約七百枚の計算です。しかし、三日間のうちで初日が最も暑かったせい、うちわは予想を上回るハイペースでさばけていきます。目の前の通路を歩き交うたくさんの方が次々にうちわを求めます。

午後二時にはこの日に配る予定数が底をつきました。もちろん「五十枚」は瞬く間に